

数値目標の進捗状況について

1. 一般廃棄物の数値目標と進捗状況について

(1) 計画における数値目標（計画 P38）

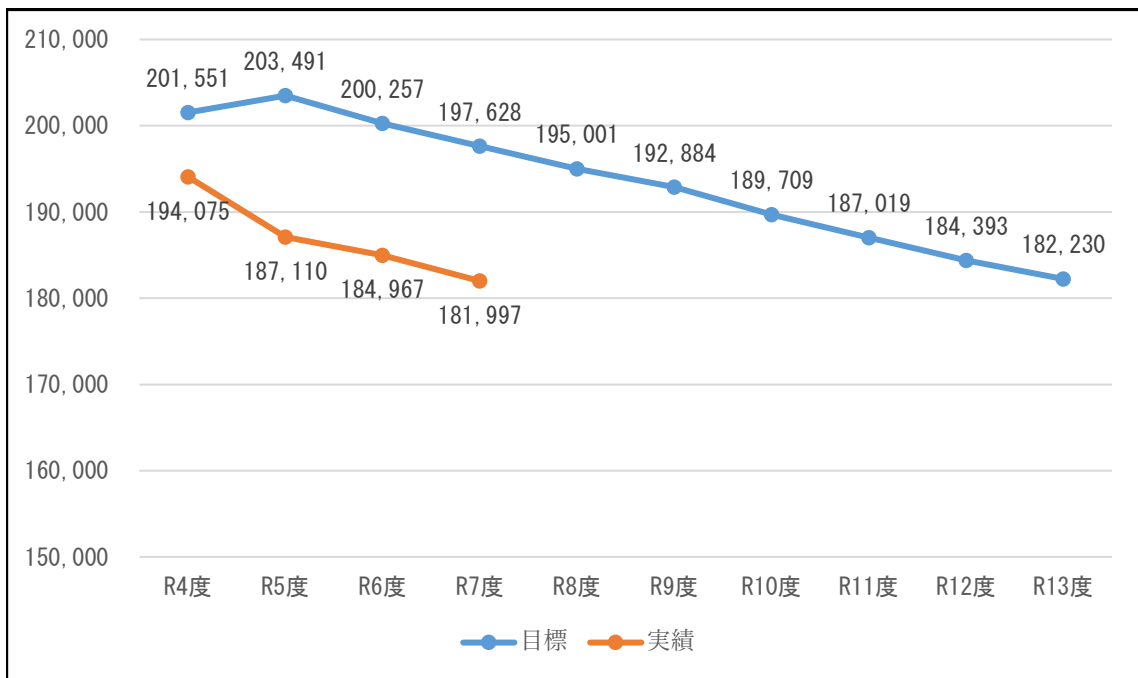
区分		基準年度	中間目標	最終目標
		令和元 (2019) 年度（実績）	令和8 (2026) 年度	令和13 (2031) 年度
数 値 目 標	総排出量	204,787 t	195,000 t	182,000 t
			5%削減	11%削減
	1人1日あたり家庭系ごみ排出量	534 g	490 g	440 g
			8%削減	18%削減
	リサイクル率	21.6%	26%	30%
	最終処分量	7,729 t	6,800 t	5,900 t
			11%削減	23%削減

(2) 令和7年度の数値目標と実績値

区分		数値目標	実績	目標 達成状況
		令和7 (2025) 年度	令和7 (2025) 年度	
数 値 目 標	総排出量	197,628 t	181,997 t	○
	1人1日あたり家庭系ごみ排出量	499.7 g	464.7 g	○
	リサイクル率	25.2%	21.0%	×
	最終処分量	7,030 t	7,069 t	×

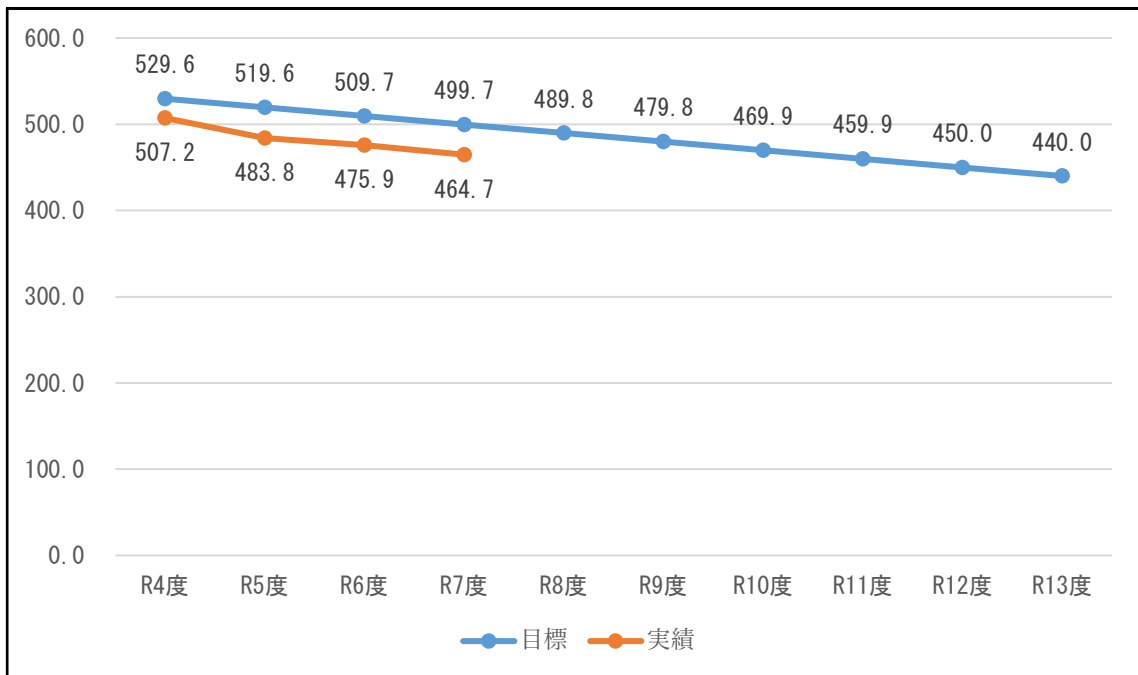
(3) 各年度の推移

①総排出量 (t)



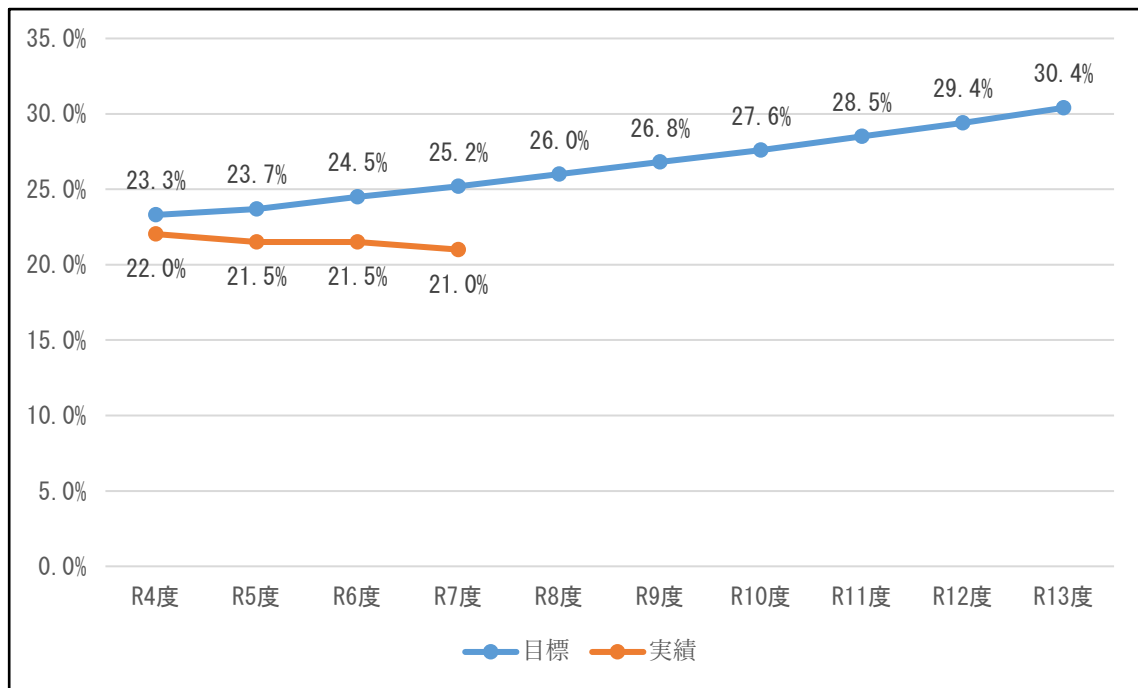
◎目標を達成している。家庭系可燃ごみが毎年減少しており、減少傾向も継続している。

②1人1日あたり家庭系ごみ排出量 (g)



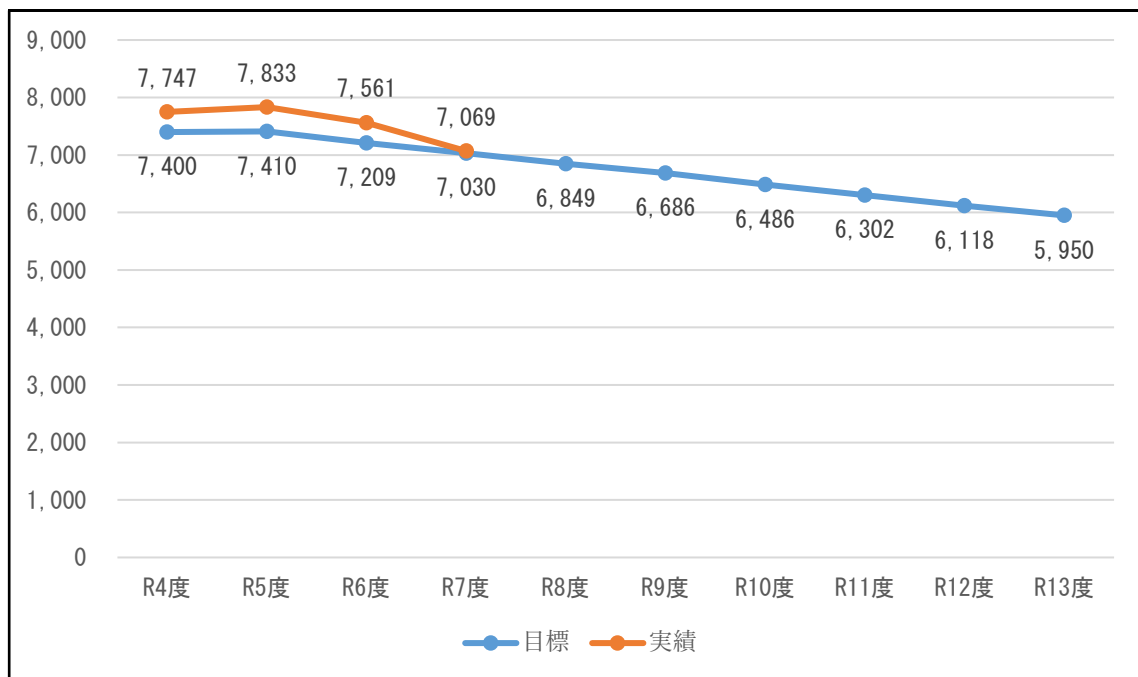
◎目標を達成している。市民のごみの減量・分別意識の向上が要因と思われ、減少傾向も継続している。

③リサイクル率（％）



◎目標を達成しておらず、リサイクル率もほぼ横ばいとなっている。ごみ量は減少しているが、それ以上に有価物の減少が大きいことが要因と思われる。

④最終処分量（t）



◎目標を達成していない状況が継続しているが、令和6年度以降は減少傾向で、徐々に目標に近づいている。

2. 食品ロスの数値目標と進捗状況について

(1) 計画における数値目標（計画 P59）

数値目標		数値目標	中間目標	最終目標
		令和元 (2019) 年度（実績）	令和8 (2026) 年度	令和13 (2031) 年度
家庭系	手つかず食品と 食べ残しの発生量 (t)	7,827 t	6,834 t	6,125 t
	厨芥類のうち 手つかず食品と 食べ残しの割合 (%)	20.2%	17.7%	15.8%
事業系 (※1)	手つかず食品と 食べ残しの発生量 (t)	8,131 t	7,385 t	6,851 t
	厨芥類のうち 手つかず食品と 食べ残しの割合 (%)	49.9%	45.3%	42.1%

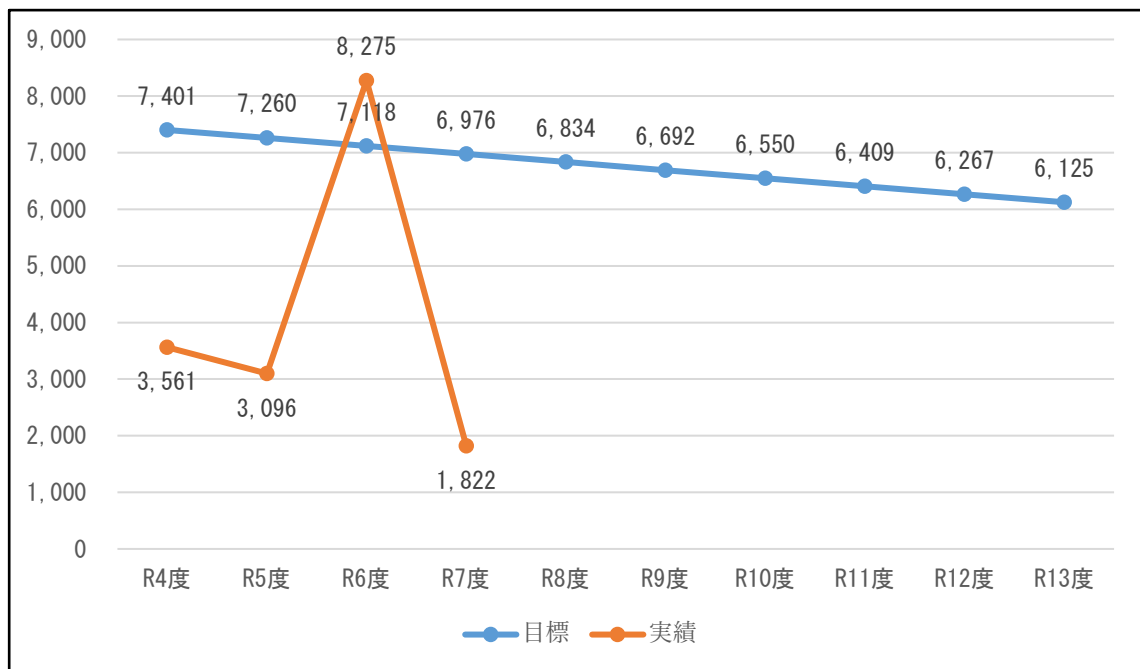
(※1 事業系の手つかず食品と食べ残しの発生量は、他市事例より推計)

(2) 令和7年度の数値目標と実績値

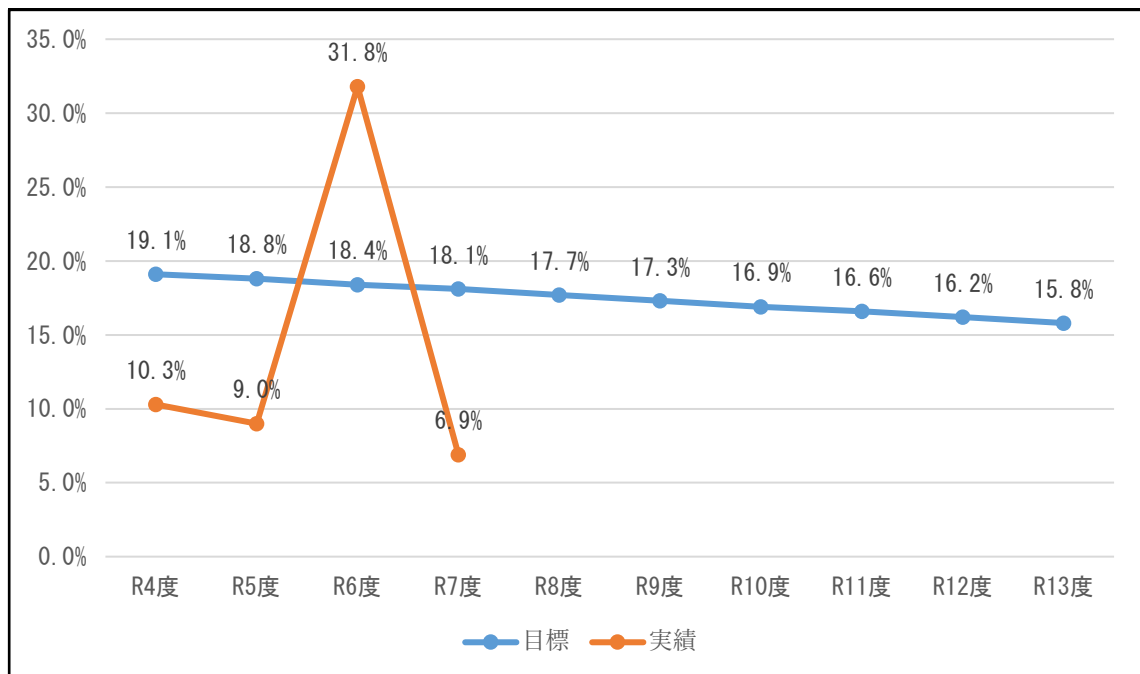
数値目標		目標	実績	目標 達成状況
		令和7 (2025) 年度	令和7 (2025) 年度	
家庭系	手つかず食品と 食べ残しの発生量 (t)	6,976 t	1,822 t	○
	厨芥類のうち 手つかず食品と 食べ残しの割合 (%)	18.1%	6.9%	○
事業系	手つかず食品と 食べ残しの発生量 (t)	7,492 t	2,813 t	○
	厨芥類のうち 手つかず食品と 食べ残しの割合 (%)	46.6%	19.4%	○

(3) 進捗状況

①【家庭系】手つかず食品と食べ残しの発生量（t）

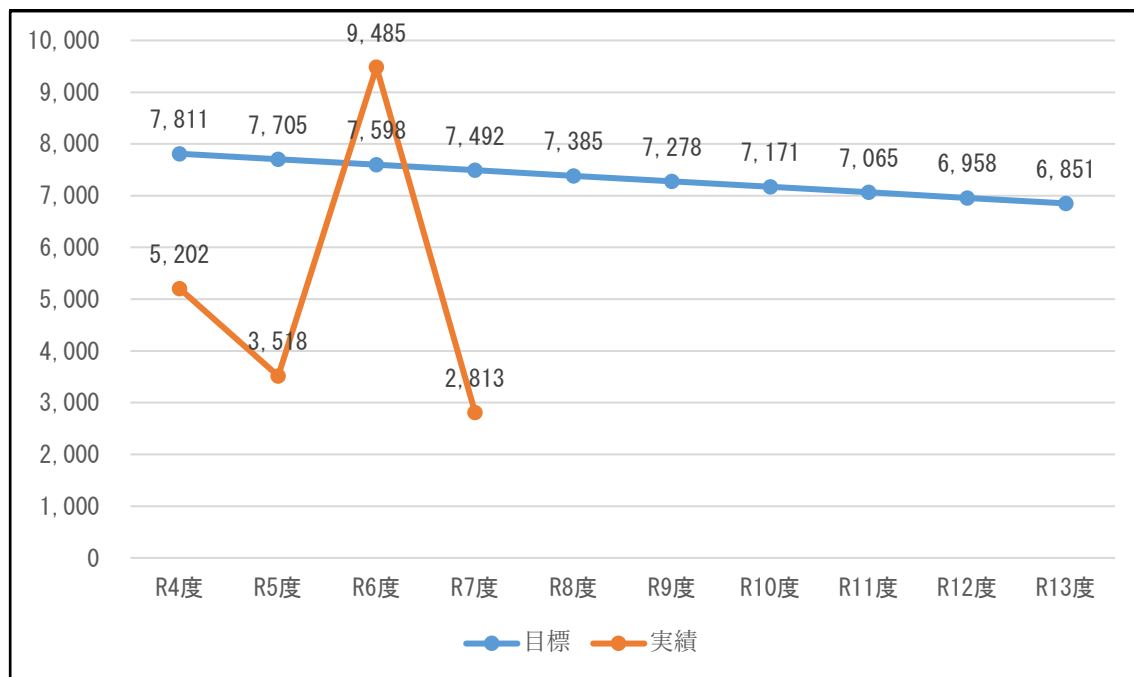


②【家庭系】厨芥類のうち手つかず食品と食べ残しの割合（%）

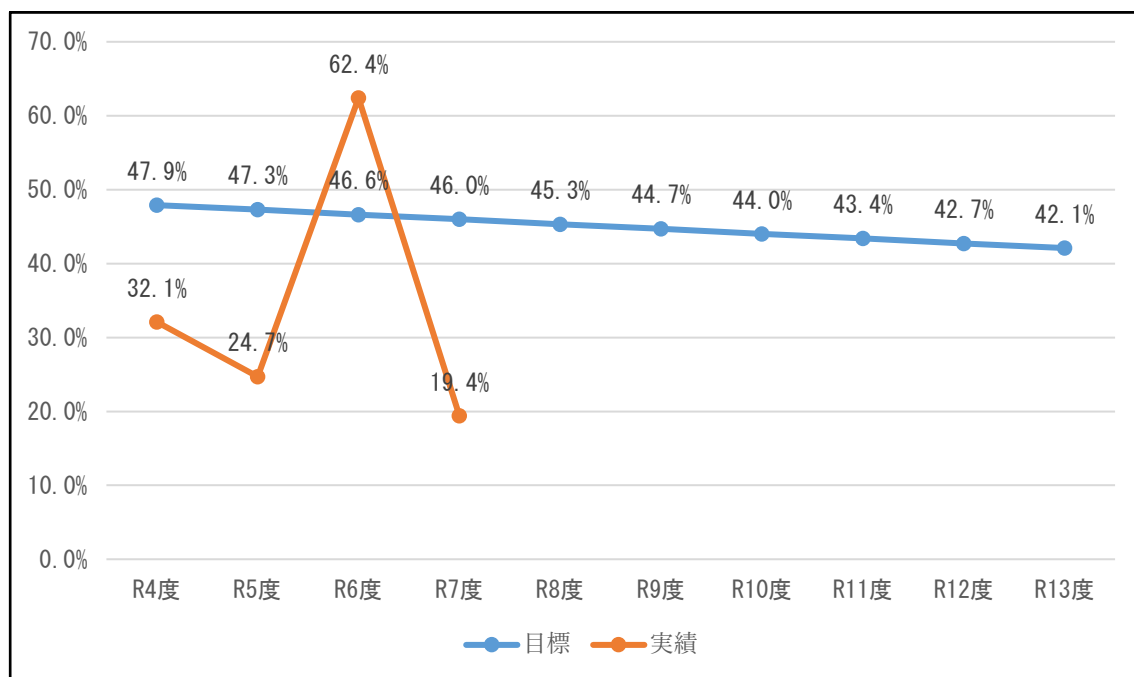


◎目標を達成しており全体的には減少傾向である。令和6年度が突出して多い理由は、組成調査を行った事業者が例年と異なり、食べ残しの対象や量、割合が例年よりも高く算出されたためである。

③【事業系】手つかず食品と食べ残しの発生量（t）



④【事業系】厨芥類のうち手つかず食品と食べ残しの割合（%）



◎概ね目標を達成しており全体的に減少傾向となっている。家庭系と同様の理由で令和6年度が突出して多い推計値となっている。